

# 北海道登別明日中等教育学校

## AKB Future Project 『世界の明日を創る』 ～未来のグローバルリーダーの育成～

### 【構想の概要】

新たな時代を築く有為な人材の育成を目指し、これまでの国際理解教育等の教育活動を基盤として、グローバル・リーダーとして求められる資質能力である「国際的な対話力」、「課題解決力」、「情報発信力」を育成するとともに、地域（北海道）や世界の食糧問題についての探究型学習に取り組むことにより、経済や環境、産業（主に農業）、地域振興など多面的、多角的な分野・領域から物事を考察する力を育成する。フィールドワーク（調査研究等）やディスカッション・交流活動等を実施することにより、日本人としての自覚（アイデンティティ）や誇りをもつとともに、国際的視野を広げ、将来、国際的に活躍し貢献しようとする人材の育成を図る。



単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
4 年生	国語総合			国語表現	現代社会		数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学A	物理基礎	化学基礎	生物基礎		体育	保健	芸術Ⅰ	英語Ⅰ	コミュニケーション	英語表現Ⅰ	SG社会と情報	総合的な学習	LHR										
5 年生	現代文B	古典B	世界史A	物理基礎	体育	保健	英語Ⅱ	コミュニケーション	英語表現Ⅱ	SG家庭基礎	選択Ⅰ	選択Ⅱ	選択Ⅲ	選択Ⅳ	選択Ⅴ	総合的な学習	LHR															
6 年生	現代文B	古典B	英語Ⅲ	コミュニケーション	英語表現Ⅱ	体育	選択A	選択B	選択C	選択D	選択E1	選択E2	総合的な学習	LHR																		

\*「SG社会と情報」及び「SG家庭基礎」を中心として、課題研究を実施している。対象生徒は全校生徒。

## 課題研究の取組



4・5回生で実施している本校の課題研究の大テーマは食糧問題である。北海道は日本の食糧基地であるという地域性や、生徒がテーマ設定をするにあたり、アプローチの方法が多様であるなどの理由からだ。

課題研究は、学校設定科目「SG社会と情報」及び「SG家庭基礎」を中心として、2単位のうち、60%程度の時間を課題研究の時間とし、4～5名のグループで研究を進めている。研究の進捗状況により、グループで話し合う時間を確保するため、集中週間として、2時間連続を2日間設定するなど弾力的に運用している。

課題研究グループが決定すると、各グループに1名の教員をアドバイザーとして配置し、論理の展開や研究の進め方などについてアドバイスをする。校長も含めて全教員がアドバイザーとして、普段は接点のない生徒や、専門外のことをテーマにしている生徒の研究を担当することもある。このように、全教員が課題研究を指導することで、生徒が身に付けている能力や、不足している能力などへの理解を深めることにもつながっている。研究は1年単位で、ポスターセッションによる発表及びレポート提出を課している。また、発表資料やレポート作成は、構成を統一するよう生徒を指導している。

## ルーブリックの作成と各教科との関連

本校の構想では、「国際的な対話力」「課題解決力」「情報発信力」を育成するとしている。ルーブリックを活用することにより、課題研究を中心とした探究活動で身に付ける力を、教員だけでなく生徒にも明確に示すことができる。

資質・能力の育成に関しては、各教科と関連を図った指導が欠かせないことから、ルーブリックの実践のため校内研修を実施し、各教科で研究授業をするなど積極的に活用した。さらに英語科では、6年間のプレゼンテーションルーブリックを作成した。ルーブリックは、主としてパフォーマンス評価で活用される項目が多いため、昨年度から、目指す生徒像について議論を始めており、今後その資質・能力

に関するルーブリックを作成する予定である。現在のルーブリックを包括するものと位置付けている。

他に、教科との関連を明確にするために、全教科のシラバスに、食糧問題に関わる單元には「食糧」、言語活動に重点を置く單元には「言語」というマークを付けている。

## 英語に関する取組

海外フィールドワーク、テレビ会議システムによる海外の学校との交流、後期生対象のイングリッシュキャンプなど、英語に関連する取組として、外部との交流の機会を増やしたことにより、コミュニケーション力やプレゼンテーションスキルが向上し、英検も2級や準1級と、上位級の取得人数が増加している。



## 今後の研究課題

6年間で、系統的に指導し、生徒に確実に力を付けることが課題である。そのため、生徒のテーマに関連するトピックの基礎的な知識は、各教科と関連を図った指導をしていくなど、各教科等横断的な視点で教育課程を改善する必要がある。さらに、教育課程を見直し、批判的思考力、情報処理能力などの資質・能力についても年次段階ごとに育成を図っていく必要がある。今後は、各教科で1年次～6年次でどのような能力が育成されるかを洗い出し、教科等を横断して整理していく。

